



コネクテッドアプリケーションの基礎： コネクテッドアプリケーションの概要と構築方法



TABLE OF CONTENTS

- 2** コネクテッドアプリケーションの台頭に伴うSaaSを取り巻く状況の変化
- 3** コネクテッドアプリケーションとは何か
- 4** カスタマーがコネクテッドアプリケーションモデルを好む理由
- 6** SaaSプロバイダーにとってのコネクテッドアプリケーションのメリット
- 7** コネクテッドアプリケーションの仕組み
- 11** 最適なアプリケーションモデルの選び方

コネクテッドアプリケーションの台頭に伴う SaaSを取り巻く状況の変化

B2Bアプリケーションの構築方法が大きく変化しつつあります。Redpoint Ventures社の社長で、ベンチャーキャピタリストのパトリック・チェイス氏が指摘しているように、業界のエキスパートたちはこの変化に気づいています。そして私たちSnowflakeも、Powered by Snowflakeのパートナーやエンタープライズカスタマーたちを通じてその変化を目の当たりにしています。その変化とは、コネクテッドアプリケーション、すなわち、データからコードを分離し、アプリケーションのデータ処理をカスタマーのクラウドデータインフラストラクチャー上で行うSaaSアプリへの移行です。

財務、マーケティング、セキュリティなど、さまざまな分野の意思決定者たちがコネクテッドアプリケーションの導入を選択しています。コネクテッドアプリケーションはデータサイロを生じさせず、大規模なAPI統合を構築および維持する必要がないからです。カスタマーのデータがカスタマー自身の管理下に留まることは、機密データを扱う企業や厳し

いコンプライアンス規制に遵守する必要がある企業にとって大きなメリットです。この新しいアプリケーションモデルは、SaaSベンダーにとっても利益率の向上から新たな市場や商機の開拓まで大きな可能性を秘めています。

このeブックでは、コネクテッドアプリケーションの基礎について、SaaSプロバイダーのカスタマーの双方がコネクテッドアプリケーションを好む理由を含めて説明します。また、Snowflake上でコネクテッドアプリケーションを構築する方法も詳しく紹介します。さらに、従来の「マネージド」アプリケーションモデルとコネクテッドアプリケーションモデルのどちらが自社のアプリケーション目標に適しているかを見極めるのに役立ついくつかの要因についても概説します。

コネクテッドアプリケーションとは何か

最近まで、ビッグデータの能力はSaaSアプリケーションプロバイダーの手に委ねられていました。カスタマー自身の環境では、必要な規模と速度で実行できなかったからです。そのため、SaaSアプリプロバイダーの高性能なデータプラットフォーム内でカスタマーのデータを処理できるように、SaaSアプリケーションにカスタマーのデータを取り込む必要がありました。これにより、カスタマーはデータの管理を手放さざるを得なくなりました。また、Snowflake上で構築されていないアプリケーションの場合、データにアクセスするためにSaaSアプリケーションごとにAPIパイプラインを構築して管理する必要がありました。

こうした従来型のモデルを実装したアプリケーションは、カスタマーのデータが保管されたデータプラットフォームをプロバイダーが管理するので「マネージドアプリケーション」と呼ばれます(図1を参照)。

Snowflake Data Cloud™をはじめとする最新のデータプラットフォームが幅広く利用できるようになるにつれ、あらゆる規模の企業が、ベンダーと同等の大規模な拡張性とコスト効率性を備えたデータプラットフォームの導入を進めています。これによりSaaSプロバイダーは、カスタマーの基盤データインフラストラクチャーに接続するアプリケーション(このため、「コネクテッドアプリケーション」と呼ばれます)を構築し、カスタマーのデータをプロバイダーのプラットフォームにロードすることなく、カスタマーのデータプラットフォーム上で処理できるようになりました(図2を参照)。

Snowflake独自のアーキテクチャは常に、アプリケーション開発者に多大な技術的優位性をもたらしてきました。マネージドアプリケーションは、コンシューマーアプリケーションやその他多くのユースケースにとって優れた選択肢となります。しかし、ますます多くの企業が、コネクテッドアプリケーションモデルが自社製品のさらなる差別化、顧客価値の増大、Snowflakeとの共同市場開拓の改善に役立つことに気付き始めています。コネクテッドアプリケーションがSaaSのカスタマーとプロバイダーにどのようなメリットをもたらすかについて、さらに詳しく見ていきましょう。

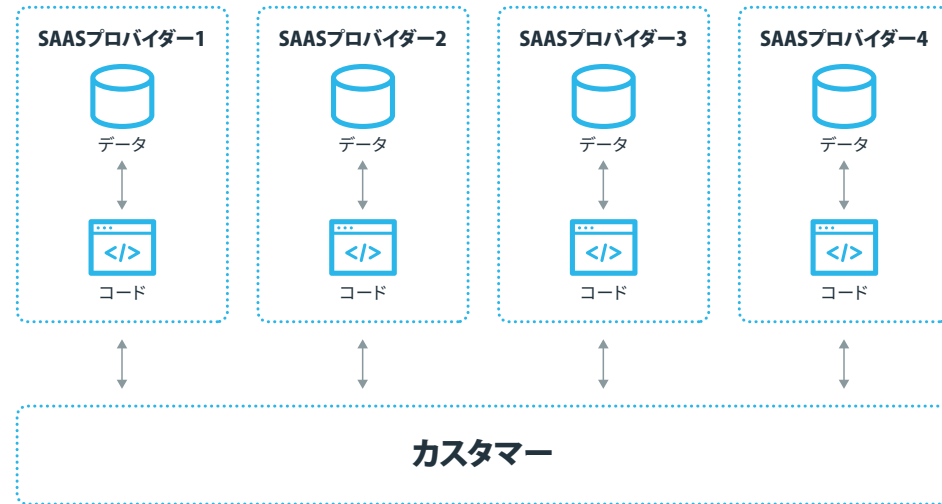


図1: マネージドアプリケーション方式では、各SaaSアプリケーションがカスタマーのデータを個別に保持します

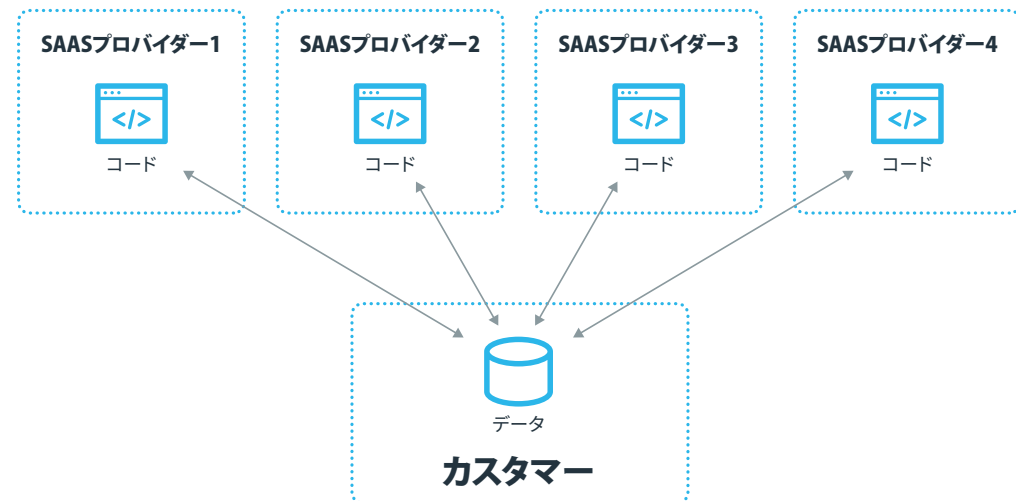


図2: コネクテッドアプリケーション方式では、SaaSプロバイダーがカスタマーのデータプラットフォームに接続します

カスタマーがコネクテッドアプリケーションモデルを好む理由

SaaSアプリケーションはエンドカスタマーに大きな利益をもたらしてきましたが、それと同時に新しいデータサイロの形成やデータ管理の放棄などの複雑さも生じさせてきました。コネクテッドアプリケーションは、こうした問題のいくつかを解消できます。以下では、Snowflakeインスタンスと直結するコネクテッドアプリケーションがカスタマーから選ばれる理由を6つご紹介します。

コネクテッドアプリケーションはエンタープライズ全体をカバーするシングル・ソース・オブ・トゥールズ(信頼できる唯一の情報源)を実現する

SaaSアプリケーションの爆発的な増加は、データの深刻な断片化につながりました。Okta社の調査によると、2,000人以上の従業員を有する回答企業は平均で187個のアプリケーションを管理しています¹。SaaSアプリケーションにおいてカスタマーのデータを従来のマネージド型モデルで管理する場合、事実上アプリケーションごとに新しいサイロが生じます。これによってデータが断片化し、カスタマーのデジタルトランスフォーメーションとデータドリブン目標に遅れが生じる可能性があります。

一方、コネクテッドアプリケーションモデルの場合、データはカスタマーによって一元化され、各アプリケーションはカスタマーのデータプラットフォームに接続します。これによりサイロが回避され、コラボレーションが促され、カスタマー自身がデータを管理できるようになります。

コネクテッドアプリケーションはAPI統合のバックログを防ぐ

マネージドアプリケーションの多くは、APIを介してカスタマーデータへのアクセスを提供しています。つまりカスタマーはアプリケーションごとにAPIパイプラインを構築、維持しなければならず、大きな負担となります。ほとんどの企業は多数のSaaSアプリケーションを使用しています。これは企業が複数のパイプライン、膨大な統合バックログ、決して一元化されないデータセットを抱えていることを意味します。コネクテッドアプリケーションの場合、カスタマーのアプリケーションデータはカスタマーのSnowflakeインスタンス内に常駐するため、API統合を構築、維持する必要はありません。

ここで1つ重要な注意事項があります。それは、マネージドアプリケーションがSnowflake上で構築されている場合、APIの管理に関する懸念は生じないということです。この場合、カスタマーはAPIではなくSnowflakeセキュアデータシェアリング機能を使用して、自身のデータに簡単にアクセスできます。

コネクテッドアプリケーションはカスタム分析を可能にする

すべてのSaaSアプリケーションのデータがSnowflakeインスタンスに集約されるため、ビジネスユーザーは複数のアプリケーションにまたがってデータセットをすることが簡単にできます。たとえば、コンプライアンスアナリストであれば、人事アプリケーションの退職記録とID管理サービスの



認証イベントを関連付ける必要が生じるかもしれません。マーケティングマネージャーであれば、カスタマーサービスアプリケーションからのサポートチケットデータとCRMからのカスタマー購買履歴とを分析することで、オファーのターゲットを絞り込むことができます。このようなアプリケーション間分析を、複数のAPIインターフェイスにまたがって実行することは困難でしょう。

カスタマーは独自のデータガバナンスポリシーを適用できる

カスタマーは、自身のアプリケーションデータを自身のSnowflakeインスタンス上で管理することで、独自のデータガバナンスポリシーを一貫して適用できます。たとえば、SaaSベンダーの中には、アクセスログや財務取引などの記録を、数か月ごとにシステムから削除しているところもあります。このことは、自社のコンプライアンスガイドラインがこれより長い(または短い)期間の記録保持を求めている場合、特に問題となります。コネクテッドアプリケーションモデルでは、カスタマーはSaaSプロバイダーの要件に対処する必要はなくなり、独自の記録保持・保管ポリシーを柔軟に決定できます。

コネクテッドアプリケーションはSaaSを高速化する

SaaSアプリケーションの動作が遅いとイライラすることがありますが、コネクテッドアプリケーションモデルを使用すればわめき散らすこと以外の対処が可能です。Snowflakeインスタンスを管理しているのがカスタマーである場合、カスタマーはSaaSプロバイダーが使用しているSnowflakeウェアハウスを簡単に拡張して、アプリケーションの検索やダッシュボードを高速化できます。こうした高速化は、たとえば忙しい監査の時期のみに一時的に行うことも、会社の成長に合わせて永続的に行うこともできます。

コネクテッドアプリケーションはエンタープライズ全体に実用的なレポートを提供する

ほとんどのSaaSアプリケーションはある程度のレポート機能を備えていますが、そのダッシュボードは基本的なものであり、すべてのデータへのアクセスは提供されず、ユーザーによるアプリケーションへのサインインが必要です。コネクテッドアプリケーションでは、データはカスタマーのデータプラットフォームにあるため、Tableauのような標準的なツールを通じてアクセスしたり、エンタープライズBIレポートで使用したりできます。CSVファイルをエクスポートしたり、スクリーンショットを送信したりする必要はなくなります。

SaaSプロバイダーにとってのコネクテッドアプリケーションモデルのメリット

コネクテッドアプリケーションモデルからメリットを得られるのは、カスタマーだけではなくありません。SaaSアプリケーションプロバイダーも同様に恩恵を受けられます。たとえば、カスタマーがコネクテッドアプリケーションモデルを気に入り、アプリケーションユーザーとして満足すれば、アプリケーションプロバイダーも満足します。SaaSプロバイダーがコネクテッドアプリケーションを積極的に受け入れているのは、アプリケーションサービスを差別化するチャンスが得られること以外にもいくつか理由があります。以下ではそれらの理由について説明します。

Snowflakeの市場参入戦略との緊密な連携

Snowflakeは、消費ベースのセールスモデルを採用しており、Snowflakeの営業担当者は、カスタマーに価値を提供し消費を促すことができる新しいユースケースやワークロードを常に探しています。そのため、コネクテッドアプリケーションを提供しているSaaSプロバイダーは、Snowflakeのアカウントチームとの連携が強まり、Snowflakeのカスタマー基盤（2022年1月31日時点のカスタマー数は5,944）に自社のアプリケーションを売り込む機会が増えるというメリットが得られます。

セールスサイクルにおける摩擦要因の減少

見込み客は、自社のデータをSaaSプロバイダーのデータプラットフォームに保管する必要があるときに、コンプライアンスとセキュリティに関連する異議を唱えることがあります。たとえば、多くのカスタマーには、データを特定のクラウドリージョンに保管しなければならないなどの明確なデータレジデンシー要件があります。

コネクテッドアプリケーションモデルでは、データはカスタマーが選んだリージョンに留まるため、上記のような問題は起こりません。新興企業のセキュリティ成熟度について懸念する見込み客もいますが、コネクテッドアプリケーションならこの点も問題ありません。

利益率とROIの向上

Snowflakeを基盤とするSaaSプロバイダーは、Snowflakeの消費ベースの価格モデルによってコスト効率性を高めることができます。アプリケーションプロバイダーは、コンピュータの料金を秒単位で、使用した分だけ支払います。コネクテッドアプリケーションアプローチは、アプリケーションプロバイダーの利益率のさらなる向上に寄与します。Snowflakeの消費と関連コストは、プロバイダーのシステムではなく、カスタマーのシステムで発生するからです。

これらはSaaSプロバイダーにとって大きなメリットです。さらに、Snowflakeとの統合も非常に簡単です。大抵の場合、時間のかかるプラットフォーム再構築プロジェクトは不要で、Snowflakeが提供するコネクタとサービスを双方向の統合にすぐに活用できるため、SaaSプロバイダーのROIが大幅に向上します。

好例：HuntersとNETGEAR

サイバーセキュリティ分野には、コネクテッドアプリケーションモデルのメリットを示す良い例があります。セキュリティチームはこれまで、専用のセキュリティ情報およびイベント管理（SIEM）ソリューション内でデータを収集していました。これらのシステムは、エンタープライズの他のデータスタックとは別に運用されるため、拡張性や柔軟性が大きく制限されます。その結果、ほとんどのセキュリティ組織はビジネスの他の部門から切り離された数多くのデータサイロと格闘する破目になりました。

これらの制限を解消し、クラウド業界におけるNETGEARのプレゼンスの急速な高まりに伴うセキュリティニーズを満たすため、NETGEARのグローバルサイバーセキュリティ部門統括者のPallavi Damle氏は、データクラウドのコネクテッドアプリケーションに目を向けました。こちらのブログ記事に記載されているとおり、Damle氏は専用SIEMソリューションから、セキュリティアナリティクスをNETGEARの他のアナリティクスワークロードと一緒にSnowflake上で実行する方式へと移行することで、可視化目標とオートメーション目標を達成するとともに、大幅なコスト削減を実現しました。このシフトは、NETGEARがHunters.AI社から購入したSaaSソリューションによって実現されました。Powered by Snowflake/パートナーで、Snowflake Venturesのポートフォリオ企業であるHunters社は、カスタマーがスタンドアロンでもSnowflakeインスタンス上でも実行できる脅威検知/対応機能を提供しています。

HuntersはセキュリティデータをNETGEARのSnowflakeアカウントにロードし、NETGEARのSnowflakeコンピュートリソースを利用してインターフェイスとオートメーションを強化しています。Huntersの脅威検知エンジンは、NETGEARのSnowflakeリソースに直接アクセスすることで、より包括的かつ多様なデータセットを活用できます。早急の調査が必要なセキュリティインシデントが発生した場合、NETGEARの情報セキュリティチームはクエリ能力を必要に応じて速やかに拡張できます。ウェアハウスのサイズを管理しているのはNETGEARであるからです。この魅力的なモデルは、NETGEARがHuntersのカスタマーになる大きな決め手となりました。

コネクテッドアプリケーションの仕組み

コネクテッドアプリケーションの仕組みを説明するにあたり、SaaSソリューションの開発者について考えてみましょう。この開発者は、次回の広告キャンペーンでターゲットにする顧客セグメントをさまざまなデータソースに基づいて推奨するマーケティングアプリケーションなどを開発します。図3で示すとおり、アプリケーションは顧客の関連ソースからデータを収集し、必要に応じて処理します。データは顧客のSnowflakeインスタンスに置かれたままです。次に、アプリケーションはデータに予測モデルを適用し、顧客のSnowflakeインスタンス内の別のテーブルに結果を書き込みます。

コネクテッドアプリケーションのデータフローは、ユースケースに応じて異なります。たとえば、顧客のSnowflakeインスタンスにアプリケーションが必要とするすべてのデータがすでに含まれている場合、追加のロードは必要ありません。

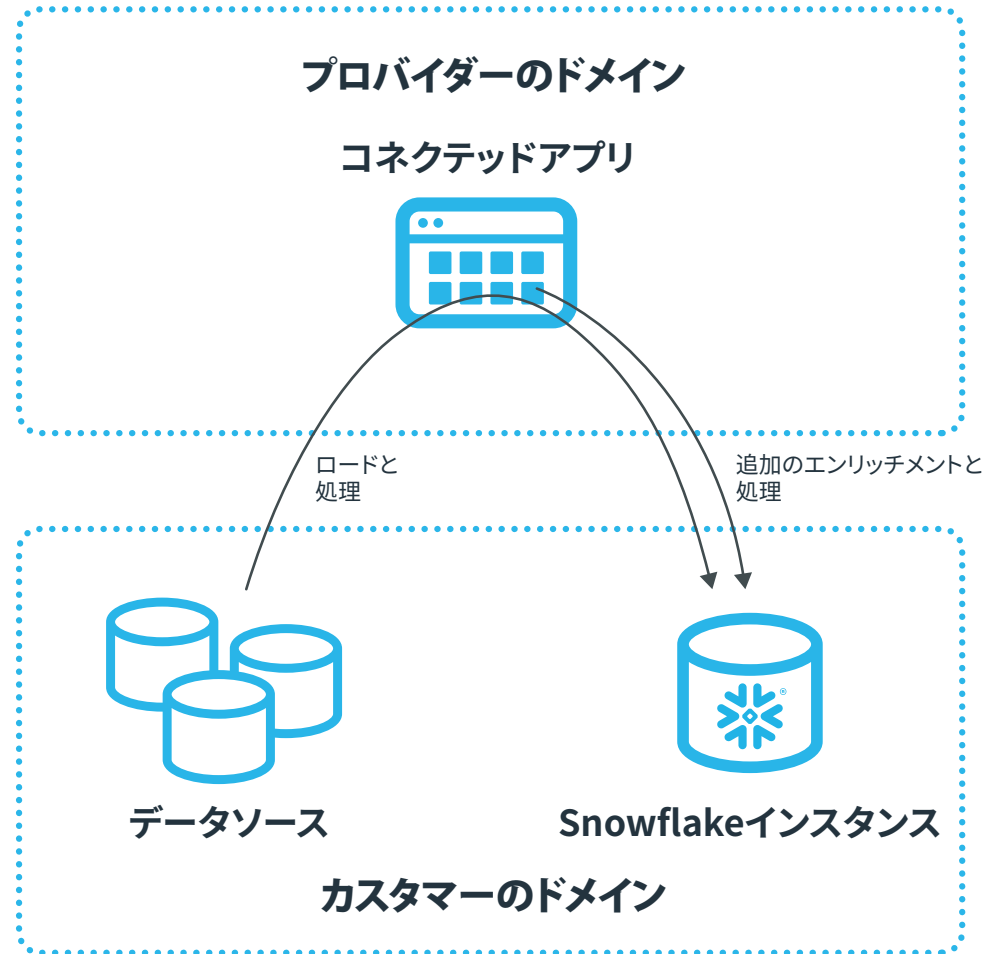


図3: 典型的なコネクテッドアプリケーションのデータフロー

図4は、複数のカスタマーがいる場合のデータフローを示しています。各カスタマーはそれぞれ自身のSnowflakeインスタンスにデータを保持しているため、マルチテナンシーは不要です。

一方、マネージドアプリケーションとして構築された同じアプリケーションは、図5に示すとおり、プロバイダーのマルチテナントSnowflakeインスタンスにすべてのカスタマーデータを保管できます。この場合、プロバイダーがデータを

管理するので、クレジットはプロバイダーのSnowflakeアカウントで消費されます。

マネージドアプリケーションがSnowflake上で構築されている場合、カスタマーはSnowflakeのセキュアデータシェアリング機能を使用してデータにアクセスできます。これによりカスタマーは、APIパイプラインを構築して管理することなしに、自身のデータに即座にアクセスできます。

カスタマーがオンボードする方法

カスタマーがコネクテッドアプリケーションにオンボードするには、この目的のための専用ユーザーを自身のSnowflakeアカウントに作成し、新しいユーザーの認証情報をアプリケーションにロードします。次に、ロールを使用してデータベース内におけるアプリケーションのアクセスを制限します。カスタマーは、一元的な信頼できる情報源の中で自身のデータを管理し続けます。

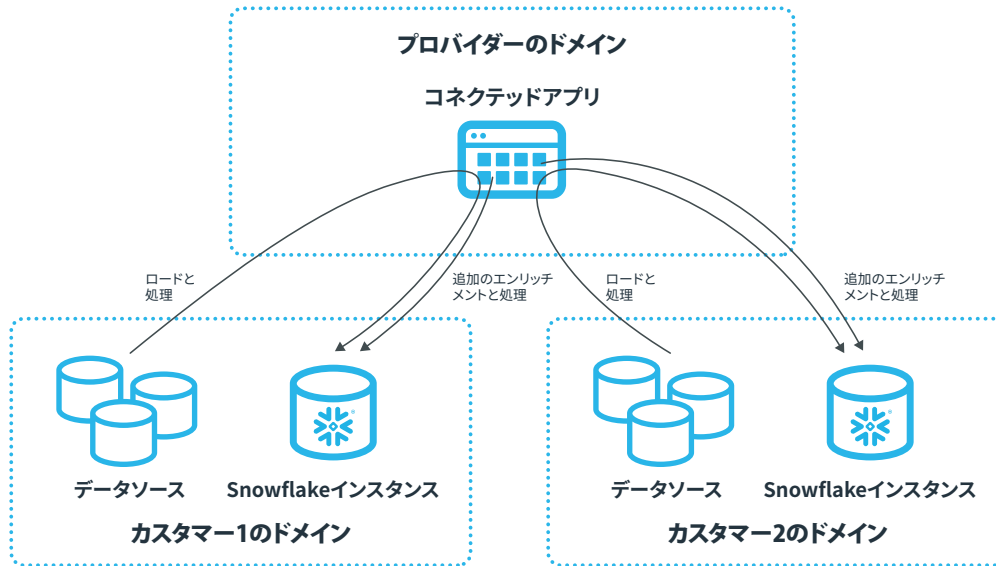


図4: 典型的なコネクテッドアプリケーションのデータフロー (複数のカスタマーがいる場合)

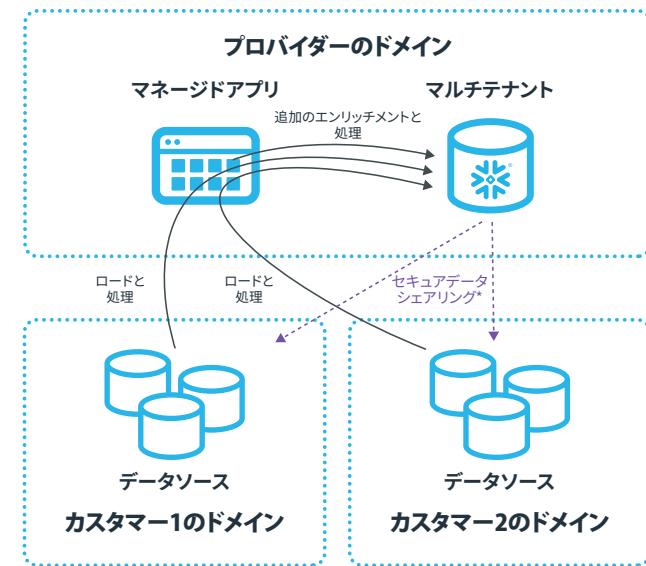


図5: 典型的なマネージドアプリケーションのデータフロー

*マネージドアプリケーションがSnowflake上で構築されている場合に利用可能

コネクテッドアプリケーションモデルとマネージドアプリケーションモデルの両方をサポートするアプリケーションを構築する

コネクテッドアプリケーションモデルとマネージドアプリケーションモデルは、互いを補い合うことができます。Snowflakeを利用してアプリケーションを構築する場合は、より広いマーケットに対応できるよう、両モデルをサポートすることを検討してください。Snowflakeアカウントを持っている、または開設できる顧客にはコネクテッドアプリケーションとして、その他の顧客にはマネージドアプリケーションとしてアプリケーションを構築できます。この場合、アプリケーションのプロバイダーは、顧客のSnowflakeインスタンスが利用できる場合は顧客のSnowflakeインスタンスに、利用できない場合はプロバイダー自身のSnowflakeインスタンスに接続します(図6を参照)。

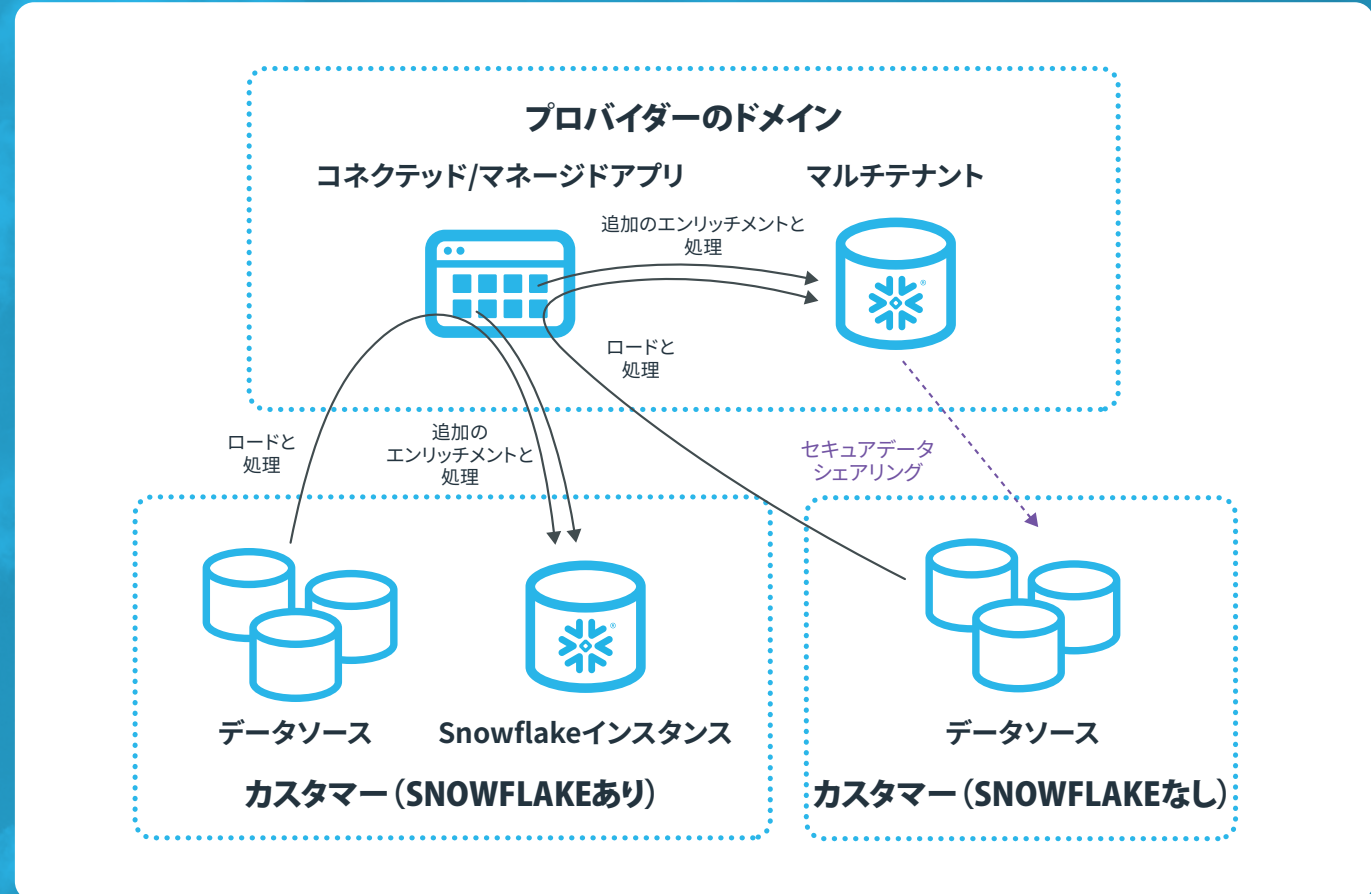


図6: コネクテッドアプリケーションモデルとマネージドアプリケーションモデルの両方をサポートするアプリケーション

コネクテッドアプリケーションでのデータのロード方法

アプリケーションのニーズに応じて、Kafkaなどのストリーミングサービスを使用してデータをストリーミングすることも、クラウドオブジェクトストレージ内のバケットにデータをステージングすることもできます。次に、図7で示すとおり、Snowflakeのサーバーレスな連続データインジェクションサービスであるSnowpipeを使用して、データをカスタマーのSnowflakeアカウントにロードします。

ステージングバケットやストリーミングサービスは、カスタマーへの負担を避けるため、アプリケーションプロバイダー側に置くことを推奨します。優れたコネクテッドアプリケーションでは一般に、カスタマーはSnowflakeデータクラウド以外のインフラストラクチャーを管理する必要がありません。Snowflakeへのデータのロード方法に関する詳細につ

いては、[Snowpipe](#)および[Kafkaコネクタ](#)に関するドキュメントを参照してください。

コネクテッドアプリケーションでのデータのクエリ方法

カスタマーのSnowflakeインスタンスへのクエリは簡単です。SnowflakeはANSI SQLに完全に準拠しているので、SQLデータベースを使用するアプリケーションならどれでも双方向のクエリサポートを簡単に実装できます。加えて、アプリケーションは多様なプログラミング言語やサポート対象コネクタを使用して、Snowflakeにクエリできます。Snowflakeコネクタとドライバーには、Node.js、Go、.NET、JDBC、ODBC、PHP、Python、Sparkが含まれます。また、SnowflakeのSQL REST APIを使用すれば、ドライバーをデプロイして管理することなしに、簡単にSnowflakeにクエ

リできます。接続オプションの詳細については、SnowflakeのコネクタとAPIに関するドキュメントを参照してください。

コネクテッドアプリケーションとSnowflakeは簡単に実統合できます。Powered by Snowflakeのパートナーの経験によると、プロジェクトは通常、製品やチームに応じて6週間から8週間で完了します。また、コネクテッドアプリケーションモデルでは、アプリケーションはSnowflakeカスタマーのみに限定されません。コネクテッドアプリケーションを構築するときに、複数のデータプラットフォームを対象にコネクタを追加できます。そのため、アプリケーションはカスタマーが使用するどのプラットフォームにも接続できます。

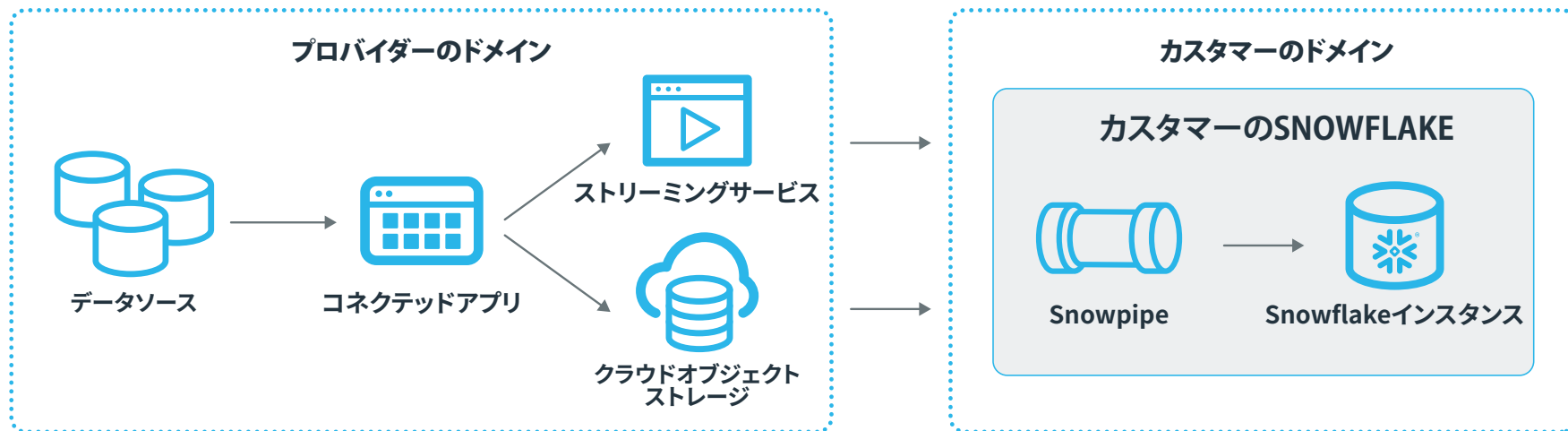


図7: コネクテッドアプリケーションでSnowflakeにデータをロードする

最適なアプリケーションモデルの選び方

多くのSaaSプロバイダーがコネクテッドアプリケーションに大きな期待を寄せていますが、マネージドアプリケーションモデルが重要なメリットをもたらす状況も数多く存在します。たとえば、SaaSプロバイダーは、マネージドモデルがフルマネージド型のサービスの提供を可能にし、ターゲットにする顧客に柔軟性をもたらすことを理由に、マネージドモデルを選択する場合があります。マネージドモデルでは、オンボーディングプロセスや課金体系もシンプルになります。

重要なのは、異なるアプリケーションモデル間のトレードオフを理解し、それぞれのモデルが相互に排他的でないことを認識することです。多くの企業は、おそらく最初に一方のモデルを採用し、その後、新しいビジネスや顧客ニーズに基づいてもう一方のモデルを採用することで、時間の経過とともに両方のモデルを導入します。

ここからは、御社の状況に最適なアプローチを選択する上で役立ついくつかの質問をします。ユースケースはそれぞれ固有のもので、御社のニーズに基づいて各要因を検討してください。

御社のビジネスは、Snowflake顧客への共同販売でメリットが得られるか

御社がアプリケーションをSnowflake顧客に売り込むことを計画している場合、コネクテッドアプリケーションモデルの採用を検討することをお勧めします。そのほうが、御社のマーケティング/セールスの取り組みとSnowflakeの市場参入戦略とがうまく連携するからです。コネクテッドアプリケーションモデルは顧客に優れたメリットを提供しつつ、Snowflakeアカウントの利用率も高めるので、Snowflakeのセールス部門との強力なコラボレーションが可能になります。

アプリケーションは消費者や多数の顧客をターゲットとしているか

消費者向けのアプリケーションの場合は、マネージドアプリケーションモデルを選択した方がよいでしょう。コネクテッドアプリケーションモデルでは、SaaSプロバイダーがサポート対象のデータベースごとにコネクタを追加す

る場合を除き、Snowflakeアカウントをすでに保有している顧客のみが対象となるからです。同様に、大量の顧客をターゲットとする場合、運用上大きな負担となるため、マネージドアプリケーションモデルのほうが適しています。コネクテッドモデルでは、アプリケーションを各顧客のSnowflakeアカウントに接続する必要があるため、運用上の負担が大きくなる可能性があるからです。



プロダクトの利益率を上げたいのか、コストを削減したいのか

利益率とコストを重視する場合は、コネクテッドアプリケーションモデルのほうが有利になる可能性があります。コネクテッドアプリケーションモデルでは、Snowflakeの利用料金（これはときにパートナーに販売される商品の原価の大きな部分を占めることがあります）が顧客のSnowflakeアカウントで発生するからです。顧客が負担する合計コストはユースケースに応じて異なる場合がありますが、プロバイダーが負担するコストは一般に低くなります。

アプリケーションで機密データを扱うか

御社のアプリケーションで個人識別情報（PII）または保護医療情報（PHI）、あるいはデータレジデンシー規制に準拠する必要があるデータを処理する場合は、顧客によるデータ管理が可能なコネクテッドアプリケーションモデルがより良い選択肢となるでしょう。顧客にデータレジデンシー要件がない場合でも、コネクテッドモデルを採用することで、セールスサイクルにおける摩擦や必要な承認を減らすことができます。

顧客全体にわたってデータを分析または活用するか

アプリケーション機能を提供するために顧客全体にわたってデータを分析する場合は（すべての顧客が活用できる汎用モデルを構築する場合など）、マネージドアプリケーションモデルが最適でしょう。御社がすべてのデータを保管し、管理するため、御社のアプリケーションで顧客全体に対してクエリを実行することがより簡単にできます。

顧客はベンダーに縛られることを懸念しているか

顧客や見込み客が別のアプリケーションに切り替えられるかどうかを懸念している場合は、コネクテッドアプリケーションモデルを選択したほうが良いでしょう。御社は顧客のデータを管理しないため、顧客は必要に応じて他のアプリケーションに容易に切り換えることができます。こうした柔軟性は、競争上の差別化要因になり得ます。

アプリケーションはSnowflakeのマルチテナント実装からメリットを得られるか

Snowflakeは、マルチテナントテーブル（MTT）、テナントごとのオブジェクト（OPT）、およびテナントごとのアプリケーション（APT）の3つのマルチテナンシーモデルを提供しています。詳しくは、「[Design Patterns for Multi-Tenant Applications on Snowflake \(Snowflakeでのマルチテナントアプリケーションの設計パターン\)](#)」をご覧ください。MTTまたはOPT設計パターンを実装する場合は、御社が管理するSnowflakeインスタンスに顧客のデータを保管する必要があります。そのため、マネージドアプリケーションモデルを使用する必要があります。

OPTまたはMTTソリューションの実装は、コネクテッドアプリケーションで必要とされるAPTモデルの実装よりもコスト効率的で、運用もシンプルです。実際、APTテナンシー設計パターンの場合、顧客ごとに多くのオブジェクトを更新する必要があり、運用上の負担が増大する可能性があります。

フルマネージド型のサービスを提供して収益を増やしたいか

顧客にフルマネージド型のサービスを提供して、Snowflakeの消費量に関連する収益を獲得したいなら（利益率が下がるとしても）、マネージドアプリケーションモデルを選択したほうが良いでしょう。一部の顧客は、データの管理やアプリケーションに必要なアカウントと認証情報の作成がIT組織によってサポートされないなどの理由から、フルマネージド型のサービスを好む場合があります。同様に、アプリケーションの消費に関してSnowflakeに別途支払いをするよりも、プロバイダーから予測可能な料金体系を示されるほうを好む顧客もいるでしょう。

加えて、すべてのインフラストラクチャーを管理することで、御社がすべての運用とテクノロジーの選択をすべて掌握することになります。たとえば、御社はアプリケーションのニーズとエクスペリエンスに基づいて、ウェアハウスのサイズを選んだりルールを一時停止したりできます。また、クラウドプロバイダーやリージョンを選択することもできます。

アプリケーションモデルを選択する際に考慮すべき8つの要因

次に示す各要因は特定のモデルに有利に働きます。意思決定をする際には、御社のケースに当てはまる要因について熟考し、両方のモデルを導入することも検討してください。

要因	有利なモデル	留意点
アプリケーションの販売対象はSnowflakeカスタマー	コネクテッド	<ul style="list-style-type: none"> コネクテッドアプリケーションモデルはSnowflakeの市場参入戦略に沿っており、コラボレーションによってより多くのメリットが得られるという利点があります。
利益率を高めたいか	コネクテッド	<ul style="list-style-type: none"> コネクテッドアプリケーションモデルは、Snowflake使用量をカスタマーのアカウントにシフトし、プロバイダーの利益率を向上させます。
フルマネージド型のサービスを提供したいか	マネージド	<ul style="list-style-type: none"> マネージドアプリケーションは、アプリケーションが必要とするデータインフラストラクチャーの管理や費用の負担からカスタマーを解放します。
カスタマーはベンダーの縛りを懸念しているか	コネクテッド	<ul style="list-style-type: none"> コネクテッドアプリケーションモデルでは、カスタマーが自身のデータを管理するので、より簡単に他のアプリケーションへの切り替えができます。
アプリケーションは非常に多くのカスタマーをターゲットとしているか	マネージド	<ul style="list-style-type: none"> マネージドアプリケーションモデルは、多数のSnowflakeアカウントに接続するという負担がないため、よりシンプルです。
マルチテナントモデルの実装を予定しているか	マネージド	<ul style="list-style-type: none"> MTTまたはOPT設計パターンでは、プロバイダーが管理するSnowflakeアカウントにカスタマーのデータを保管する必要があります。
アプリケーションで機密データを扱うか	コネクテッド	<ul style="list-style-type: none"> コネクテッドアプリケーションモデルでは、機密データや個人識別情報はカスタマーによって管理されます。
アプリケーションでカスタマー全体にわたってデータを活用するか	マネージド	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの機能上、カスタマー全体のデータの分析やクエリが必要な場合、すべてのカスタマーのデータが一括管理されるマネージドアプリケーションのほうがシンプルです。

まとめ

新しいコネクテッドアプリケーションモデルは、単なる技術的選択肢ではありません。カスタマーの基盤データインフラストラクチャーに接続できなければ実現できない、新しいビジネス機会や収益モデルをもたらします。カスタマーは、自身のデータを自身のプラットフォームに保管し、管理しながら、革新的なSaaSアプリケーションのクリティカルなサービスやエンリッチメントからメリットを得ることができます。

コネクテッドアプリケーションモデルはマネージドアプリケーションモデルを補完しますが、コネクテッドアプリケーションモデル自体にも重要な利点があります。まず初めに両モデルのメリットとトレードオフを評価してから最初に使用するモデルを選び、時間の経過とともにビジネスが成長するにつれて両方のモデルを導入することを検討してください。

Snowflakeでアプリケーションを構築することのメリットについて詳しくは、[Powered by Snowflakeプログラム](#)をご確認ください。





Snowflakeについて

Snowflakeは、Snowflakeのデータクラウドを用い、あらゆる組織が自らのデータを活用できるようにします。顧客企業はデータクラウドを利用してサイロ化されたデータを統合し、データを検索して安全に共有しながら、さまざまな分析ワークロードを実行しています。データやユーザーがどこに存在するかに関係なく、Snowflakeは複数のクラウドと地域にまたがり単一のデータ体験を提供します。多くの業界から何千ものお客様（2022年4月30日時点で、2021年のForbes Global 2000社（G2K）のうち506社を含む）が、Snowflakeデータクラウドを全社で幅広いビジネスに活用しています。詳しくは、[snowflake.com](https://www.snowflake.com)をご覧ください。



©2022 Snowflake Inc. All rights reserved. Snowflake、Snowflakeのロゴ、および本書に記載されているその他すべてのSnowflakeの製品、機能、サービス名は、米国およびその他の国におけるSnowflake Inc.の登録商標または商標です。本書で言及または使用されているその他すべてのブランド名またはロゴは、識別目的でのみ使用されており、各所有者の商標である可能性があります。Snowflakeが、必ずしもかかる商標所有者と関係を持ち、または出資や支援を受けているわけではありません。

参考

1 「Businesses At Work 2022」、Okta：www.okta.com/businesses-at-work/